

# 老若男女が得意分野を持ち寄って ～小さなサロンの雑談から地域の課題解決～

高砂北上町内会 会長 杉崎 博子さん



## 女性リーダー育成プログラムで得た気づきと 地域への想い

会長を引き受ける前年、役員選考委員になり、前会長が次の引き受け手がないことで苦労されていたのを見て、なんとかしなければという思いで会長職を引き継ぎました。会長を引き受けてすぐ前会長がお亡くなりになり、すべて手探りで前年度踏襲からのスタートでした。

そんな中で別の町内会の女性の会長の勧めで参加した、仙台市主催の女性リーダー育成プログラム「決める・動く」が転機となりました。参加者が地域でどんな活動をしているかを学ぶことで、町内会を活性化するために、何かをしなければという想いが芽生えました。そうして、まず、立ち上げたのが地域の人々が気軽に集える「サロン」でした。

## 肩の力を抜いて、まずは“サロン”から

サロンは、近隣住民が顔を合わせて、おしゃべりしたり、裁縫を楽しんだり、つながりを深める場として月2回開催しています。町内の松寿会（高齢者クラブ）と協力して実施することとしました。毎回10人ほどが集まりにぎやかに会話を楽しみます。「特に目的がなく集まる」という発想を意外に思う方もいるかもしれませんが、それが大事でした。意図していなかった良いことがたくさんありました。まず、お互いが元気で暮らしているか「生存確認」ができます。また、雑談での情報交換から町内の課題に気づき、解決のための協力者が見つかることもありました。裁縫サロンは、何を作るか軌道に乗るまで試行錯誤をしましたが、得意な方が先生役となり、2、3回で出来上がる壁掛け等の小物作りで落ち着きました。作品を町内のバザーで販売することもできました。



## コミュニティづくりは小さい輪から

サロンは本当に簡単で、「やる」って言えばいいだけでした。1人2人賛同してくれる人がいれば輪は広がります。あまり構えず、まずは毎月みんなが気軽に集って、賑やかにおしゃべりできる場づくりが活動の最初の一步でした。

## 世代を超えて関わり、支え合う場づくり

次に考えたのが、こどもや若い世代を含めた活動でした。北上ふれあい広場というお祭りを企画しました。集会所で、芋煮や焼きそばをつくり、ゲーム等ができる行事を実行しました。サロンに集まったメンバーもバザー等に協力してくれました。なかなか人が集まりませんが、3年目となった今年は天候にも恵まれ、多くのこどもたちやお父さん、お母さん、これまでの親睦会等に参加されなかった方たちも来てくれました。内容は、まだまだ工夫していかなければなりませんが、様々な世代の方の交流の場にしていきたいと思います。

町内会の運営で大切にしているのは、「情報の共有」と「誰もが関われる仕組み」です。毎月の回覧では、情報を整理し、分かりやすく伝えることを意識しています。また、仕事を持っている方も役員として関われるよう、役員会・班長会ではレジュメをつくりスムーズな進行になるよう努めています。

町内会は地域を支える大切な組織です。役員の担い手不足や住民の高齢化、町内の公園と旧用水路の清掃の負担の大きさ等多くの課題はありますが、サロンやふれあい広場など“顔の見える関係づくり”を大切にしながら、一つ一つの課題に取り組んでいきたいと思います。

